

**Successful engraftment of bladder organoids in  
de-epithelialized mouse colon**

須田 一人（順天堂大学小児外科 小児泌尿生殖器外科）



この度は、光栄な賞を頂戴しまして誠にありがとうございます。今年度の学会でも、例年同様に臨床・基礎研究ともに興味深い演題を拝見し、多くを勉強させて頂きました。

受賞対象となった「Successful engraftment of bladder organoids in de epithelialized mouse colon」は、組織幹細胞機能に由来する3D培養オルガノイドを用いて他個体大腸への異所性移植モデルを提唱するもので、本論文では腸粘膜を取り除いた「膀胱上皮化大腸組織」の作成を報告しました。当初、この技術は短腸症候群の患児に対して小腸の吸収機能を補填するため大腸上皮を小腸のそれに置換することを目的としたものでしたが、本論文によって全く異なる組織間同士の細胞接着・膀胱上皮幹細胞機能が保持されることがわかり、臨床だけでなく科学的にも非常に興味深い現象を捉えることができたと感じています。今後は、この「膀胱上皮化大腸組織」化技術をもとにさらに大きな動物で、「腸管利用膀胱拡大術でありながら腸管粘膜に起因する術後長期合併症を回避し得るか」を証明していく研究計画に取り組んで参ります。研究領域を拡大し、良質な学術論文を作成するだけでなく、将来は本研究内容が臨床応用可能となることを目標に、日々精進して参ります。

末筆ながら、日本小児泌尿器科学会の益々のご発展を心より祈念致します。今後とも、学会員の先生方におかれましてはご指導ご鞭撻の程を何卒宜しくお願い申し上げます。